

浮世絵のおもちゃ箱—「遊べる浮世絵展」のあそびかた—

國學院大學教授・国際浮世絵学会常任理事 本展監修者 藤澤紫



展覧会のみどころ！

- ①プロローグ—浮世絵と江戸文化—
- ②第1章—愛される子どもたち—
- ③第2章—遊びと学び—
- ④第3章—子どもと人気のキャラクター—
- ⑤第4章—おもちゃ絵の楽しみ—
- ⑥エピローグ—浮世絵と国際交流—

1. 浮世絵と江戸文化

①浮世絵を知るキーワード

- (1)時代：「浮世（うきよ）の絵」（いまを楽しむための楽しいテーマ）
- (2)地域：「江戸絵（えどえ）」（江戸から発信する新しいメディア文化）
- (3)技法：「（東・吾妻）錦絵（あずまにしきえ）」（江戸生まれのフルカラー印刷）
- (4)価格：「錦絵一枚一六文（にしきえいちまいじゅうろくもん）」（天保の改革時、かけそば一杯とも）

②浮世絵と遊ぼう！ その1 ふたりのふくすけ？

【図1】歌川芳虎 「道外上下見の図」（部分図）
文久元～2（1861～62）年頃 公文教育研究会

【図2】歌川芳藤 「福助（有卦絵）」
安政5（1858）年 公文教育研究会



※遊べるヒント！ さかさまにしてみよう！ ※遊べるヒント！ 「ふ」の字がつくもの、いくつあるかな？

③参考文献・ウェブサイト

- (1) 藤澤紫・加藤陽介 監修 『遊べる浮世絵 くもんの子ども浮世絵コレクション』 2018年 青幻舎
- (2) 「くもん子ども浮世絵ミュージアム」 <https://www.kumon-ukiyo.jp/>
- (3) 「公文教育研究会子ども文化史料閲覧データベース」 ※立命館大学アート・リサーチセンター（ARC）との産学共同事業
http://www.dh-jac.net/db1/books/search_kumon.php

2. 遊べる浮世絵

①歌川芳藤 (1828~1887)

江戸後期から明治期に活躍、本名は西村藤太郎。戯画の名手・歌川国芳 (1797~1861) に入門、一鵬斎と号し武者絵や美人画を描く。後に「よし藤」の名でおもちゃ絵を多く手掛ける。国芳が写生を意識したりアルな戯画を得意としたのに対し、芳藤は愛らしくユーモラスな作風で、大人から子供まで幅広く愛される作品を提供した。



②浮世絵と遊ぼう！ その2 実はほのぼの？こわい猫

【図3】歌川芳藤 「五拾三次之内猫之怪」(部分)

嘉永元~2年(1848~49)年 公文教育研究会

※右の作品中に「猫」は何匹いるのかな？

③浮世絵と遊ぼう！ その3 「判じ絵」の読み方(ヒント)

【図4】歌川重宣 「江戸名所はんじもの」 安政5(1858)年 公文教育研究会

※右の絵に隠れた江戸の地名、読みとけるかな？

(1)事物の一部を省いて言葉を暗示

※「猪(いのしし)」の上半身+窓=「今戸」(いまだ)

(2)「洒落」で謎とき

※「葱(ねぎ)」が4本=「根岸」(ねぎし)

(3)わざと言葉をずらす「地口」遊び

※「龍(りゅう)」+「極(ごく)」=「両国」(りょうごく)



④浮世絵と遊ぼう！ その4 「折かわり絵」で遊ぼう

【図5】歌川芳藤 「此中はおもしろきもの」より「折かわりゑ」 慶応(1865~68)頃 公文教育研究会

※男児→スルメ、猫→筆、達磨→唐茄子(とうなす)に!?

